令和７年度　ティーチング・ポートフォリオ

東北生活文化大学短期大学部
生活文化学科　子ども生活専攻
准教授　　伊藤利恵

１．教育の責任

子ども生活専攻は、保育士養成校として国家資格である保育士資格と教職課程（幼稚園）として幼稚園教諭二種免許状の取得を目指すことができる。これらは子どもの教育・保育に関する重要な資格・免許である。本教員が、担当する科目は以下の通りであり、主に保育士資格取得のための必修科目とあわせて幼稚園教諭取得における共通科目である。本教員の専門領域は、「子ども家庭福祉領域」であるため、保育実習指導においては、「保育実習Ｉ（施設）」の本実習指導を担当している。保育士は福祉専門職であるため、福祉領域の専門的知識を教授し、演習や実習での体験的な学習に繋げていくことができるように工夫している。

科　目		単位数（必修・選択）	授 業 形態	開講時期	備考
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	２（必修）	講義	１年前期	保育士必修 社会福祉主事任用資格必修
	地域福祉論	２（選択）	講義	２年後期	
	子ども家庭支援論	２（選択）	講義	２年後期	保育士必修
保育内容・方法に関する科目	保育内容（人間関係）	１（必修）	演習	１年前期	保育士必修 幼稚園教諭必修
	子どもと人間関係	１（必修）	演習	２年前期	
保育実習	保育実習指導Ｉ	２（選択）	講義	１年通年	保育士必修
教育実習	教育実習（事前事後指導を含む）	５（選択）	実習	１・２年通年	幼稚園教諭必修
教職実践演習・総合演習	保育・教職実践演習（幼稚園）	２（選択）	演習	２年後期	保育士必修 幼稚園教諭必修

２．教育の理念

（１）保育の本質・目的を理解する

この領域にある科目は、歴史的背景や思想、制度・政策の変遷などが中心となり、保育実践を行う上での基盤となるものである。保育の成り立ちや社会との関係を捉え、現在の保育理論が子どもの成長・発達や子育てをどのように支援しようとしているのかを理解できることを目指している。

（２）保育内容・方法を理解する

保育内容の領域（人間関係）を担当している。ここでは、発達心理学の理論と保育所保育指針・幼稚園教育要領のねらいや内容を繋げながら理解できることを目指している。そして、グループワークによる事例検討及びその発表を行うこと。指導計画をもとに模擬保育を行いグループ間でのディスカッショ

ンを行うことなど保育方法に対して具体的に学ぶ機会をもち、保育に応用することができよう演習授業を工夫している。

（３）学生の個性並びに実習園に合わせた実習指導（保育実習・教育実習）

保育士資格においては、保育実習Ⅰ（保育所・施設）と保育実習Ⅱ（保育所）の計３回（各１０日）の実習を行う。幼稚園教諭二種免許においては、４週間の実習を行う。この実習においては、各学生の個性に合わせた働きかけが重要となる。学生が実習中にモチベーションを維持し、また、実習の進行状況を確認し、目標設定の調整を行い、実習の展開過程を学生自身が把握しながら取り組むことができよう指導を行う。さらに、実習園それぞれの方針もあるため、学生と実習園との媒介になるように実習中のコミュニケーションを図る。実習終了後は、実習の振り返りを行い、学生自身が客観的な考察ができるよう配慮した指導を行う。

３．教育の方法

（１）講義科目における工夫

講義科目では、教科書を使用している。教科書を解説するため PowerPoint を使用し、補助資料等も盛り込み、視覚からの理解も進むようにしている。授業中は、教科書に直接書き込むことを推奨している。これは、保育方法等を学ぶ演習科目や、実習事前事後指導において使用するときに理論と実践方法を連動させて理解することをねらいとしている。事前事後の学習については、classroom を活用し情報を共有できるようにしている。また、classroom から振り返りシートを毎回配信しており、その授業回事の学生の理解を確認している。

（２）演習授業における工夫

演習授業では、事例検討や指導計画案に基づく模擬保育等そして振り返りを行っている。このとき、まず事前に理論や知識の確認を行うこと。個人による事前学習を行うこと。これらをもとにグループワークによる事例検討などに入る。グループでの事例検討や指導計画案の作成等は、classroom を活用し、ワークシートをグループで共有し。グループ討議を行いながら共同作業により、成果物を作り上げ、発表を行う。発表後はグループ間で質疑応答により振り返りを行い、課題を明確化できるようにする。授業終了後は、各グループから提出された成果物は履修者に配布しシェアしている。また、事前事後の学習については、classroom を活用し情報を共有できるようにしている。また、classroom から振り返りシートを毎回配信しており、その授業回事の学生の理解を確認している。

（３）実習指導について

実習指導は、授業の外で行う実習準備や実習の振り返りにおいて個別に指導を行っている。実習園の違いや学生の個性に合わせて事前の準備を行うことや事後の振り返り学習を行うことが必要となるからである。実習の準備並びに実習の振り返りの報告書では、classroom を活用し各学生の提出物に対し、個別に指導を行っている。電子ファイルでの提出のため、コメント機能を活用し、指示が適切に伝えることができる。また、電子ファイルを毎回保存しておくことにより、加筆修正の履歴を確認することもできる。実習指導において、学生への指示を明確に行うことができるよう工夫し取り組んでいる。

（４）フィールドワークを活用した学習

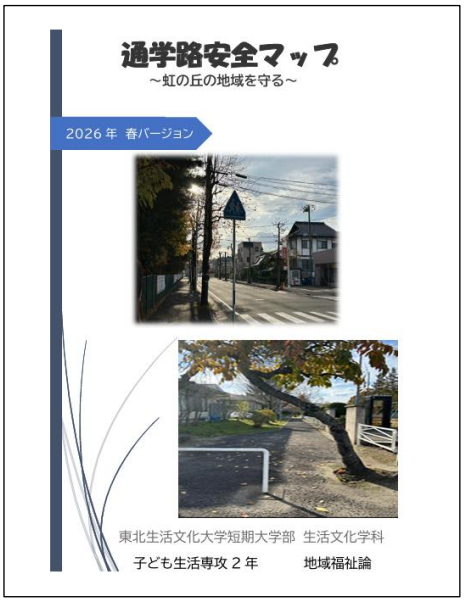
「地域福祉論」において、履修学生とフィールドワークを行い、その報告書を作成しながら、地域福祉に関する理論学習もおこなった。フィールドワークのテーマは、「通学路安全マップ」の作成である。近隣の小学校の通学路の安全確認、それから、その地域に設置されている社会資源となる機関について確認し、機能や役割を調べながら地域福祉について学習を進め、報告書を作成した。報告書は、模造紙による通学路安全マップ「冊子版」と「ポスター版」の２種類を作成し、協力施設（小学校や福祉施設）に報告としてお礼と共にお渡しした。社会調査についての一連の手続きの学習を行うこともねらいとしている。

４．教育の成果

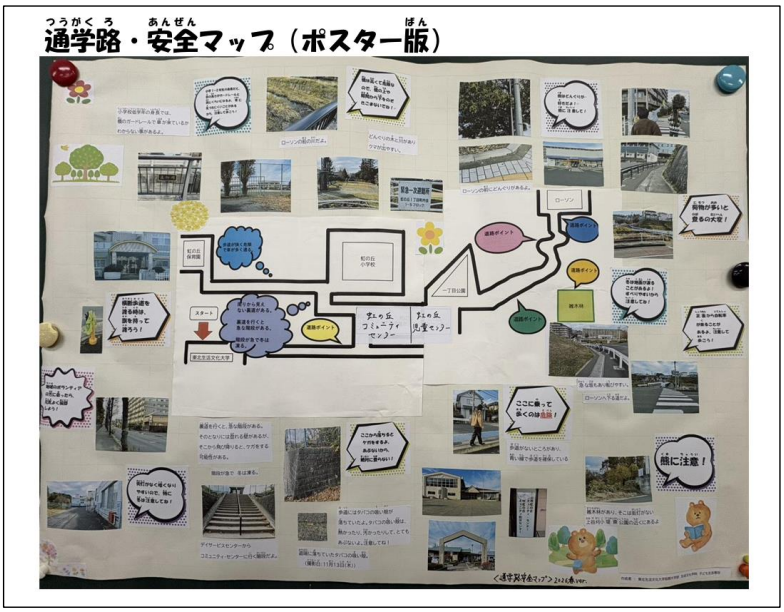
１年次の開講科目は、基礎理論の学習内容が多い。隣接領域の科目で未学習の場合もあり、学生は難しさを感じているようである。具体的な事例や他の科目との関連等を教授することを意識している。授業終了後に毎回提出を求めている振り返りシートを確認すると、各授業で学んだことへの理解が進んでいることやグループ討議が考察に深みをもたらしていることが確認できる。特に実習後は、それぞれの実習園での取り組みなどを具体的に用いて事例考察する姿もみられ、具体的かつ実践的な学びに繋がったと捉えている。

「地域福祉論」のフィールドワークを通した学びにおいては、フィールドワークの調査計画から作成し、調査協力の依頼、訪問、調査、分析、報告書の作成、協力者への報告と御礼を行い、社会調査の一連の手続きを実践し学習することができたと捉えている。

「通学路安全マップ」冊子版（表紙）



「通学路安全マップ」ポスター版



＊各協力施設には、調査報告書として「冊子版」と「ポスター版」を一組としてお渡しした。

５．今後の目標

短期大学であることから、２年間で基礎理論による基盤を学び、演習や実習指導によって実習へ向かう方法論を身に付け実習を行う。そのため、基盤となる理論科目と実践的方法論を連動させて学んでいくことができるような工夫が課題となる。個人の学習意欲が基本とはなるが、グループの力動性を活用して、お互いに気付きを与えあうような学習の機会をもてるよう意識した取り組みをしていきたいと考

えている。協働しながら学ぶことで理論と方法論のつながりについて理解が進み、さらにそれらを応用していくための多様な発想をもつことができると考えている。チームで協力し合う保育や他職種との連携、家族との連携を行いながら子どもの育ちを支える保育士や幼稚園教諭には、協働する力を養うことも必要であるため、学習過程において協働するスキルを養うことにも意識して取り組んでいきたいと考えている。